
引越し当日・・・（サヨナラメルト）

kerube

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

引越し当日・・・（サヨナラメルト）

【Nコード】

N1019I

【作者名】

kerube

【あらすじ】

サヨナラメルトを男視点で小説化してみました

あいつと昨日別れた。

朝目が覚めてやけに広くなった部屋に戸惑う。

あいつのいないこの部屋がどこか嘘のよう。

あいつが忘れていった花の髪飾りのせいであいつを泣かせた俺の言葉
を思い出す

「あのさ、俺と別れてくれないか？」

「え？」

「ごめん、俺もつと遠くに引越すんだ。だからサヨナラ。」

いつそ溶けてしまいたい。

あいつの記憶に。

爪痕に。

温もりに。

あいつには笑っていて欲しい。

その笑顔が向けられるのはきつと俺にじゃないけど。

俺の好きな笑顔で。

天気予報どおり空からは雨が降る。

人ごみの中で唇を噛む長い髪の少女「あいつの姿を見た

「え……。」

俺は凍りついた。

それぞれの手には別々の傘。

お互いに足早になりすれ違う。

何かが落ちる音がした。

傘に隠した瞳が熱い。

痛いほどに思いが伝わる。
息を呑んだ気配に震える。
小さな

「サヨナラ」が聞こえた。

心が悲鳴をあげて泣きそうだ。

覚えているかい？

あの日も雨だった。

本当に好きだったんだよ。

君の事はずっと覚えていた忘れたことなんか無い。

君は優しさも温もりも教えてくれた。

それなのにどうしても離れなくてはいけない事をどうか許して欲しい。

こんな俺だから君を傷つけてしまった。

でも俺は君の想いでもすべてを抱いて生きていく。

でも俺は本当は君と同じように弱虫だったんだ

本当は君の前で泣きたかった、強がりたく無かったんだ。

素直になれなかった。

君にもう1度会いたい。

その時は絶対に素直になるから。

もう切なさには死んでしまいたい。

だから君とのこの町にサヨナラ。

電車の扉が閉まる。

一人の影が駆けてきた。

あいつだ。

涙でくしゃくしゃの笑顔であいつが

「さよなら」

の口パクをした。

俺はもつとあいつとはなれるのが嫌になった
「いつか帰ってくるから・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1019i/>

引越し当日・・・（サヨナラメルト）

2010年11月2日20時00分発行